

1

[報告 | report]

島根県飯南町「旧赤来町役場文書」調査プロジェクトについて

Interim Report of the Archives Project for the “Old Akagi Town Records” of Iinan Town, Shimane Prefecture

安藤正人 | Masahito Ando

はじめに

学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻は、2010年度より、島根県飯南町「旧赤来町役場文書」調査プロジェクトに参加している。このプロジェクトは、飯南町長の依頼により、島根県総務部総務課竹島資料室(2011年度からは公文書センター)、島根大学法文学部社会文化学科歴史と考古教室、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻(以下、本専攻という)の3者が共同で実施しているもので、筆者がリーダーをつとめている。

現地調査は夏休み期間中に実施しているので、本専攻の学生のみなさんに、調査協力員として多数参加してもらっている。本専攻では、筆者担当の授業科目「アーカイブズ・マネジメント論研究Ⅰ(現代アーカイブズ管理論)」と連動する学外研修のひとつと位置づけ、史料調査論を講ずる何回かの授業を、飯南町調査の準備研究にあてている。プロジェクトはまだ道半ばだが、第2次調査を終えた現時点での中間報告をすることにした。

1 — 飯南町と「旧赤来町役場文書」

飯南町は、2005(平成17)年1月、^{いいなん}頓原町と^{とんぼら}赤来町^{あかぎ}の2町が合併して誕生した。島根県中南部の飯石郡に属し、広島県との県境に位置する中国山地の町である。人口は5,400人余り。

旧頓原町と旧赤来町のうち、赤来町の行政上の変遷は次の通りである。

- 1889(明治22)年 町村制施行により、飯石郡小田村・真木村・上来島村・野萱村・下来島村の5村が合併して^{きじま}来島村が、同郡赤名町・上赤名村・下赤名村の1町2村が合併して赤名村が、邑智郡塩谷村・井戸谷村・畑田村の3村が合併して谷村が成立。
- 1934(昭和9)年 赤名村が町制施行し赤名町となる。
- 1953(昭和28)年 赤名町と邑智郡谷村が合併し、飯石郡赤名町となる。
- 1957(昭和32)年 赤名町と来島村が合併し赤来町となる。

今回調査の対象となっている「旧赤来町役場文書」は、赤来町役場が保存していた、赤来町成立以前すなわち1957年

以前の、旧来島村・旧赤名町・旧谷村の行政文書が中心である。現在、飯南町来島支所の土蔵に収蔵されている。

この土蔵は、1889年に小田・真木・上来島・野萱・下来島の5村が合併して来島村となった際、小田村の個人宅から新しくできた来島村役場の裏に移築され、役場付設の文書庫として使用されるようになったといわれる。蔵の前面の壁に、五輪のマークが花卉のように丸く描かれているが、これは5村合併を記念して、移築の際に付けられたという[写真1]。

来島村は1957年に赤名町と合併して赤来町となり、新しい赤来町役場は旧赤名町の方に置かれるが、この土蔵は引き続き赤来町役場の文書庫のひとつとして使用された。したがって、旧来島村文書の多くは、ほぼそのまま土蔵に残ったのだと思われる。そして、その後のどこかの時点で、もともと旧赤名町役場や旧谷村役場にあった行政文書の一部が、この土蔵に運び込まれ、現在の「旧赤来町役場文書」群が構成されることになったと推察できる。その、どこかの時点として最も可能性が高いのが、1965年～1972年の町史編纂事業である。

旧来島村土蔵は、1957年の合併で役場本庁舎が赤名町に移ったこともあり、しばらく忘れられた存在だったようだ。そこに初めて本格的な調査の手を入れたのが、おそらく1965年に町史編纂事業を開始した赤来町史編纂委員会であったろう。調査の成果として、1972年刊行の『赤来町史』巻末には、「赤来町役場所蔵資料」の頁があり、「旧来島村文書」782点、「旧赤名町文書」503点、「旧谷村文書」433点の簡易目録が掲載されている。先に記したように、「旧来島村文書」は別として、「旧赤名町文書」と「旧谷村文書」は、この町史編纂時あるいは編纂終了後に土蔵に持ち込まれた可能性がある。まだ目録と現物との照合を終えていないので確実なことは言えないが、これら合計1700点余の文書は、ほぼ土蔵に現存していると見られる。以上から、土蔵内の文書の現状は、少なくとも町史編纂時にかなり整理の手が入った後のものであり、その意味で、必ずしも来島村役場時代や赤来町成立初期の旧状を十分に伝えていない可能性がある。

2 ― 調査プロジェクト開始の経緯

1979年から1981年にかけての時期に、島根県が赤来町所蔵の県例規類を借用している。島根県総務課では、明治期に発行された県例規類のうち県が保存していない分を補うため、県内市町村役場の調査を行って、資料を借用のうえ複写した。この時、最も多くの県例規類を提供したのが赤来

町だという。そのことと関係するのかわからないが、1980年代前半に、役場職員の一人が、旧来島村土蔵の整理をしたということである。

さて、1979年～1981年の島根県による複写事業は必ずしも完璧なものではなく、近年の再点検の結果、原本の一部しか複写していないなど、多くの欠落部分が見つかった。そこで島根県総務課では、赤来町役場文書の例規類について2004年に再調査を行うことになった。そのきっかけとなったのが、鳥取県公文書館による赤来町役場文書の調査計画である。鳥取県は、1876(明治9年)～1881(明治14)年の5年間、島根県に併合された歴史を持つ。そのため鳥取県立公文書館は、合併時代の史料を中心に、島根県内での史料調査やマイクロフィルムによる史料収集に力を入れてきた。その対象のひとつとして、赤来町役場文書が選ばれたのである。

2004年7月、島根県総務課と鳥取県公文書館による合同調査が行われた。この時、土蔵内に、例規類だけでなく、明治期から昭和期にかけての大量の行政文書が、半ば未



写真1 ― 飯南町来島支所土蔵

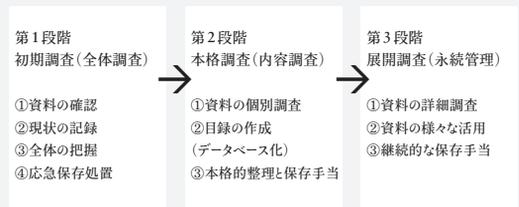


図1 ― 段階的調査

整理のまま残されていることが、あらためて確認された。

赤来町役場文書に含まれる例規類300余冊の県への借り出しは、飯南町の成立を待って2008年9月に実現するが、島根県総務課では、例規類を複写して返却するだけでなく、この機会に、土蔵内の文書全体を永続的に保存するための対策を講ずる必要があると考えた。そしてその相談を、近代史研究者で島根県内の近代行政文書の調査と保存活動に長年携わってきた島根大学法文学部の竹永三男教授と、以前から島根県立図書館所蔵松江藩郡奉行所文書や旧松江藩家老三谷家文書の保存活動に関わってきた国文学研究資料館青木睦准教授と筆者に持ちかけたのである。

こうして、2009年9月30日に、飯南町と島根県総務課の担当者、ならびに竹永、青木、安藤の3名による下調査と協議が行われた。その結果、島根県、島根大学、学習院大学の3者を中心とする合同調査プロジェクトの案が持ち上がり、2010年度の開始をめざすことになった。その際、①長期的には、アー

カイブズ学的な段階的調査の考え方[図1]にいう第3段階、すなわち「旧赤来町役場文書」の永続的管理体制の確立を目標とする、②プロジェクトの当面の目的としては、第1段階の全体調査と第2段階の内容調査を3、4年を目途に終了させる、の2点が合意された。その後の、第1次調査(2010年8月)にいたる関係機関関係者の細かい準備作業については省略するが、飯南町長から学習院大学への正式依頼(筆者あて)は、2009年12月24日付けて受け取っている。

3 — 第1次調査 [2010年8月]

3-1: 調査実施計画の立案

学習院大学大学院アーカイブズ学専攻では、2010年度に筆者が担当した授業科目「アーカイブズ・マネジメント論研究Ⅰ(現代アーカイブズ管理論)」で、飯南町調査プロジェクトをとりあげ、史料調査論に関する6-7月の授業数回を関連する学

島根県飯南町「旧赤来町役場文書」調査実施計画表(最終案) | 原案:齋藤柳子、改訂:安藤正人 | 2010/07/22

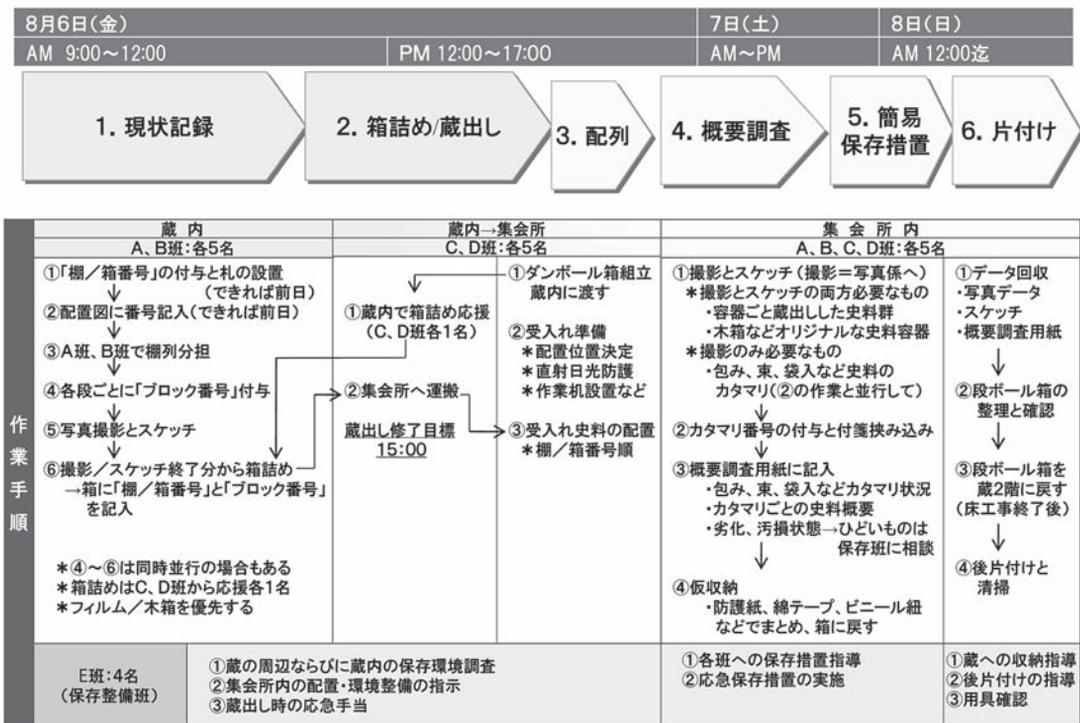


図2 — 調査実施計画表(作業工程表)

習にあてた。まず文献その他の情報によって「旧赤来町役場文書」の概要と、行政組織の変遷など歴史的背景を学んだ。その上で、アーカイブズ学的な史料調査論にもとづく具体的な第1次調査実施計画を履修者全員に立案してもらった。

一般に、史料調査計画立案にあたって考慮すべきことは、大きく分けて、①段階的調査の各段階に対応した調査目的、②調査対象史料の現状、③日数、人数、場所、資材、予算等の条件、の3点である。今回の場合は、おおむね以下の通り。

①第1段階と第2段階の調査を3、4年で終了させることを目標に、第1次調査では第1段階の全体調査を行う。

②飯南町来島支所土蔵2階の木製棚と文書箱多数に、冊子体文書を中心とした大量の明治～昭和期行政文書が、おそらくは1972年の町史編纂事業終了以降ほとんど手つかずのまま、多くはむき出し状態で置かれている。したがって、整理に着手する前にできるだけ綿密な現状記録を行う必要がある。

③3泊4日、約30人が参加。土蔵に隣接した集会所を作業

場所として使用できる。ただし、調査期間中に土蔵2階の床補強工事を実施する。そのため、調査2日目には土蔵2階の収蔵資料を一旦すべて外に搬出しなければならない。よって、土蔵内での現状記録を、精密性を欠くことなくいかに迅速に行うか、また搬出作業をどう効率的に進めるかが、調査計画立案のひとつのポイントとなる。

以上のような条件を示して履修者全員に第1次調査計画を立案してもらい、全員で検討し合った。その結果選ばれた最優秀案に筆者が修正を加えたのが、図2である。これは、第1次調査の作業工程表として実際に使われた。

3-2: 調査の実施

第1次調査の実施日、実施場所、参加者は以下の通りである。

- 実施日 2010年8月5日～8月8日
- 実施場所 島根県飯石郡飯南町来島支所
(土蔵ならびに集会所)
- 参加者 30人(飯南町1人、島根県総務課津島資料室4人、島根大学法文学部社会文化学歴史と考古教室8人、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ専攻14人、松江市1人、国文学研究資料館2人)。なお、学習院大学の参加者内訳は、教員1人、助手1人、博士課程4人、修士課程8人であった。

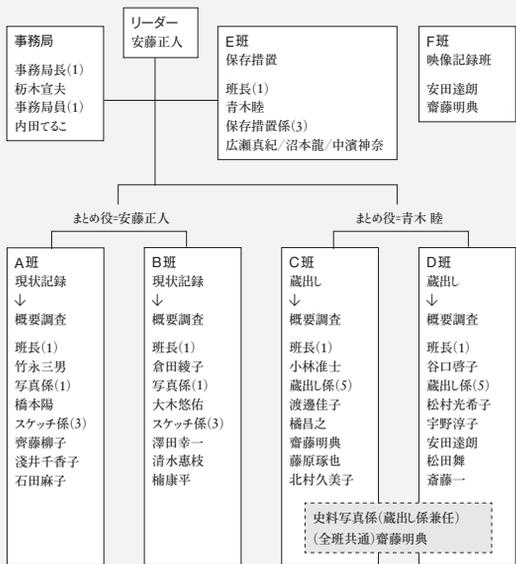


図3 班の編成

【班の編成】

調査計画にもとづき、リーダー、事務局のほかにも、調査作業班4班(A-D)、保存措置班(E班)、映像記録班(F班)を置いた。図3の通りである。

【作業の実施】

作業は図2に示した工程表と図4、図5に示した作業要領にしたがって進められた。以下、工程表に示されている6段階の作業内容について、簡単に説明する。

1: 現状記録 [写真3-5]

土蔵内での現状記録は、工程表に示した通り、①「棚/箱番号の付与と札の設置」から、⑤「写真撮影とスケッチ」までの作業になる。作業要領は、図4に示した通りだが、とりわけ重要なのは「現状記録5/Step4」の「ブロック番号の付与」である。棚に置かれたり木箱に入ったりしている文書の「まとまり」を見分けて的確なブロック番号付けを行わないと、場合によっては「原秩序」復元の手掛かりを失うことになる。

なお、図4のうち「現状記録1/Step1」の図面は、調査対



写真2 作業開始前のミーティング



写真3-5 —— 土蔵内での現状記録



写真6 —— 概要調査作業の様子



写真7 —— 第1次調査終了後の土蔵内の状況

象である来島支所土蔵2階の現状を比較的正確に表しているが、「現状記録2/Step2」以下の写真は、1枚を除き、別の役場文書の写真をサンプルとして掲載したもので、混同しないよう注意されたい。

来島支所土蔵2階における現状記録の様子は、写真3-5の通りである。

2:箱詰め/蔵出し

3:配列

土蔵内での現状記録が終わった文書は、棚に置かれたものや大型木箱に入ったものは段ボール箱に入れ替えて、小型の木箱などはそのまま、土蔵に隣接する集会所に運び出し、配列した。箱番号の付け方は図5の通りである。

4:概要調査 [写真6]

概要調査は、図2の工程表に記されている通り、土蔵から持ち出したオリジナルな文書容器の調査と、ブロックごとに蔵出した文書の物理的現状の情報(とくに包み、束、袋入り文書など、今後の調査で原形が変更される可能性が高い「カタマリ」情報)を記録化することが主眼である。その意味では、現状記録の一部である。それとともに、文書の内容と数量について、文字通り概要を記し、第2段階の内容調査の見通しを立てる基礎データとするのである。概要調査用紙の記入方法については、図6の記入サンプルを使用した。

5:簡易保存措置

国文学研究資料館の青木睦准教授を班長とする保存措置班が、土蔵の温湿度環境や虫害状況の調査を行うとともに、文書・図面・動画映像フィルムなど多様な資料の保存について検討し、簡易保存措置を指導、実行した。これらの作業についての詳細は、いずれ青木氏を中心にまとめられることを期待して、ここでは、映像フィルム類と図面類の保存措置について、青木氏から提供されたデータと写真を紹介するにとどめたい。

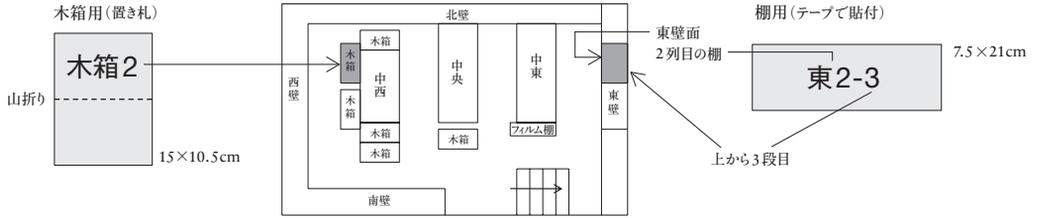
フィルムは、個人から寄贈された138本の16ミリフィルムで、貴重な地域映像を含んでいる。一部については教育委員会がデジタル化をしているということだが、土蔵内に残されているオリジナルフィルムについて、次のような簡易保存措置を行った。

[鉄缶にフィルムが入っている場合]

鉄缶:刷毛でクリーニングを行い、サビ等を落とす[写真8]

フィルム部分:フィルムの幅にカットしたピュアガードを内側に少し巻き込み、外側のフィルム部分をくるむ[写真9]。鉄缶にぴったりフィルムが入っていなかったものは、ピュアガードでフィルムを包みこんで鉄缶に戻した[写真10]

【現状記録1】 Step 1 | 棚/箱番号の付与と番号札の準備



【現状記録2】 Step 2 | 棚の全体スケッチと撮影

列 ↓ 列の全体撮影

段 →

- [1] 蔵内の平面図は既にあるものを利用し、異動のみ記す ↓
- [2] 棚番号と箱番号を設置する * 棚番号=棚(面)/列/段 ↓
- [3] 東西南北の壁面棚と中央の3本の棚を1面1枚で全体スケッチ。同時に、各面を全体撮影 ↓
- [4] 各棚の列ごとにスケッチと撮影を行う(左の写真参照)

【現状記録4】 Step 3 | 棚段と木箱のスケッチと撮影

段 →

- [1] 各棚の1段ごと(または数段ごと)に写真撮影を行う(左写真参照) ↓
- [2] 各棚の1段ごと(または数段ごと)にスケッチを行う。これは主としてStep4のブロック分け状況を書き込むためのものだが、文書の種類や配列が比較的単純で、Step2で作成した列全体のスケッチで代用できる場合は、そうしてもよい。 ↓
- [3] 大型木箱についても、全体のスケッチと撮影を行う

【現状記録5】 Step 4 | ブロック番号の付与と箱詰め

【例1】「まとまり」が顕著な場合

- [1] 原則左からまとまりごとにブロック番号を置いて写真撮影 ↓ ターゲット ↓
- [2] スケッチにブロック番号を記入 ↓
- [3] ブロックごとにフルナンバーを記した付箋を挟み込んだ上で箱詰め。必要に応じ、色つきナイロン紐で仮括りする(仮括りであることを示すため)

【例2】「まとまり」が顕著でない場合

- [1] 原則左から適度な量をまとめて仮ブロックを作り、ブロック番号を置いて写真撮影 ↓
- [2] スケッチにブロック番号を記入 ↓
- [3] ブロックごとに色つきナイロン紐で仮括りし(仮括りであることを示すため)、フルナンバーを記した付箋を挟み込んだ上で箱詰めの

図4——作業要領(現状記録1-5)

【現状記録6】 箱番号の付け方(ラベル貼付または直接記入)

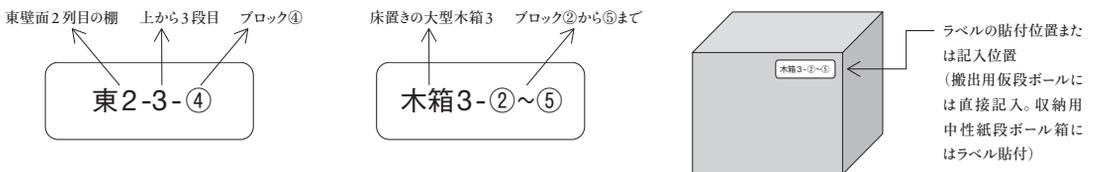


図5——作業要領(現状記録6)

次に、図面類は耕地図などの大型図面で、ロール状になっている。これについては1本ずつピュアガードで巻き込み、綿テープで1箇所留めた。

6:片付け

2日目の午後3時に土蔵2階のすべての資料を搬出し終えた後、2階の床全面に合板を貼り付けるかたちで床補強工事が行われた。工事は3日目午後3時に終了し、概要調査を終えた資料を順次土蔵に戻す作業を行った。できるだけ元の位置に戻すようにしたが、むき出してあった文書を段ボールに収納したため、やむを得ず元の位置をかなり大きく変更せざるを得なかった。

3-3:調査の結果

第1次調査の結果、土蔵2階の行政書類類は、段ボール箱にして約200箱に上がることがわかった。そのほかのアーカイブズ資料としては図面類とフィルム類があり、それに加えて、さまざまな器物、道具類が収蔵されていることが確認された。

第1次調査では、このうち、行政書類類約90箱(東壁棚置き分と床土木箱収納分のほぼ全部)、ならびに図面類とフィルム類について、概要調査まで終了することができた。したがって、次年度の第2次調査で残りの分の概要調査を終えて第1段階(全体調査)を完了し、可能ならば第2次調査において第2段

階の内容調査にまで歩を進めようということになった。

4 —— 第2次調査 [2011年9月]

4-1:調査の実施

2011年度の第2次調査も、基本的には2010年度と同じ体制で行うことになった。第1段階のもっとも大きな作業である土蔵内での現状記録は、すでに1年目で終了しているため、初めての参加者には、事前に第1次調査のビデオ映像や写真を見せて、追体験してもらった。

第2次調査の実施日、実施場所、参加者は以下の通りである。

- 実施日 2011年9月12日～9月15日
- 実施場所 島根県飯石郡飯南町来島支所(土蔵)、同町内島根県中山間地域研究センター
- 参加者 31人(飯南町1人、島根県総務課公文書センター5人、島根大学法文学部社会文化学科歴史と考古教室8人、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻11人、松江市3人、国文学研究資料館1人、鳥取県立公文書館1人、その他1人)。なお、学習院大学の参加者内訳は、教員1人、博士課程4人、修士課程6人であった。

[現状記録7] Step 5 | 概要調査用紙の記入

| 場所 | 番号 | 記録撮影 | 済み |
|---|---|-----------|-------------------------------------|
| 北壁 | 2-4-1 ~2-4-7 | 2010/8/** | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 保存容器/保存状況等 | 文書の概要 | 部局 | 種別 |
| ① 北壁2列-4段の棚は、左方に縦向きにされた文書が3列、内側2列はビニール紐で括られている。右方にビニール紐で括られた縦置き文書が4束。左方からビニール紐による束を基準に、ブロック①⑦とした。 | (水道水質管理関係文書) 「水質検査委託事業関係書類」 「水質管理状況報告書」など | 水道課 | 永年 昭36 ~53 (組1箱) |
| ② | (水道施設整備事業関係文書) 「給水装置等国庫補助金交付要綱」 「国庫補助事業」 「飲料水供給施設」 「国庫補助事業」など | 水道課 | 永年 昭42 ~49 (組1箱) |
| ⑦ | (外国人登録簿) | 住民課 | 3冊 |
| ⑦ 1 | (外国人登録簿) | 外国人登録係 | 平7.7 ~8.10 (組1冊) |
| ⑦ 2 | 庶務部長通達簿 | 同上 | 平6.8 ~8.12 (組1冊) |
| 3 | 外国人登録通達簿 | 外国人登録係 | 平6.9 ~8.10 ファイル1冊 |
| 止 | 【以上】 | | |

図6 —— 作業要領(現状記録7)

第2次調査は、飯南町来島支所の土蔵から概要調査を終えていない段ボール箱約100箱を、ワゴン車等を使って5分ほど離れた島根県中山間地域研究センターの大会議室に運び込み、そこで作業をすることになった。同センターは調査チームの宿泊場所でもあり、便利かつ快適な環境で作業をすることができたのは、まことに幸이었다。

作業は、第1次調査の時と違い、ほぼ全員が概要調査に取り組んだ[写真11]。したがって、班の編成も極めて単純で、第1班から第5班まで5班に分けた。

4-2: 調査の結果

第2次調査については、まだ島根県の方で作業成果のまとめを行っている段階なので、詳しい報告はできないが、概要調査用紙への記入はほぼ終了し、一部の班は第2段階にあたる内容調査、すなわち文書1点ごとの目録作成に入った。内容調査では、手書き用目録カードとマイクロソフト・エクセルによる入力用フォーマットを使用しているが、参考のため後者を示しておく[図7]。

5 — 今後の課題

この中間報告では、「旧赤来町役場文書」のアーカイブズ

学的な特徴や、歴史学的な面白さに触れることはなかった。まだ、それを具体的に指摘できる段階ではないからである。ただ、2回の調査を通して感じた印象を述べると、筆者がこれまで全国各地で見てきた明治期～昭和期の町村役場文書と比べても、かなり保存状態の良いまとまった史料群であるという気がする。比較的保存環境の良い土蔵の中で、あまり人目に触れることなく守られてきたことが原因のひとつであろう。

今後は、第2次調査で着手した内容調査を着々と進め、できればあと2年で第2段階の調査を終了したい。保存措置についても、当面は現在の飯南町来島支所土蔵を継続使用するという見込みで、最低限必要な措置を講じたいと考えている。しかし、その次の第3段階になると、課題は山積している。とりわけ、史料の利用体制をどう構築するかが問題だ。現在の土蔵では、保存はできても利用は困難である。利用を支える人の問題も大きい。が、明治～昭和期の役場文書として極めて貴重な文化資源、地域資源だと思うので、なんとかアーカイブズ的な施設と組織を整備して、地域の人たちが永くこれを活用できるよう、飯南町を中心に方策を考えていきたいと願っている。調査プロジェクトは、第2段階の調査をもって一応終了することになるが、その後も、できるだけ協力は惜しまないつもりである。



写真8-10 — フィルムの保存措置



写真11 — 第2次調査風景

島根県飯南町「旧赤来町役場文書」内容目録 [2011/9/14]

| 場所 | 箱/列 | 欄 | 資料番号 | 枝番 | 文書の表表第と内容 | 作成者 | 宛先 | 年代 | 形態 | 数量 | 備考 | 入力者 | 入力日 |
|----|-----|---|------|----|-----------------|-------|----|---------|----|----|-----------------|------|-----------|
| 東壁 | 2 | 2 | 9 | 1 | 1 土地台帳 [上米島 巻書] | 来島村役場 | - | 明治23年 | 縦帳 | 1冊 | 枝番1～2の2冊、布紐で一括り | 安藤正人 | 2011/9/14 |
| 東壁 | 2 | 2 | 9 | 1 | 2 土地台帳 [上米島 巻書] | 来島村役場 | - | 明治23年 | 縦帳 | 1冊 | 枝番1～2の2冊、布紐で一括り | 安藤正人 | 2011/9/14 |
| 東壁 | 2 | 2 | 9 | 2 | 田畑修正地価一筆取調帳 | 来島村 | - | 明治21年 | 縦帳 | 1冊 | - | 安藤正人 | 2011/9/14 |
| 東壁 | 2 | 2 | 9 | 3 | (田畑文書帳) | - | - | (明治12年) | 横帳 | 1冊 | - | 安藤正人 | 2011/9/14 |

数字は半角

木箱などは欄番号不要

推定は() 内容括弧は []

情報なしのセルにはハイフンを入れ

形態は帳簿は「縦帳」「横帳」「横半帳」など、状物は「巻紙」「綴紙」など、図面は「地図」「図

数量は「冊」「巻」「束」「通」「枚」など

保存形態の特徴などは備考に

図7 — 内容調査目録入力用フォーマット